

# 令和8年度 第1回 山形県幼児教育推進協議会〔議事録概要〕

期日：令和8年5月26日（火）

場所：山形県教育センター 講堂（ハイブリッド開催）

- 1 開会
  - 2 県教育委員会挨拶
  - 3 委嘱状交付
  - 4 委員の紹介
  - 5 委員長を選任
  - 6 協議
- 説明「本県の幼児教育推進に係る施策等について」

## ◆質疑応答

### <委員>

- ・架け橋期のカリキュラム開発会議について、参加対象が市町村の担当となっているが、会議の内容や方向性についてお伺いしたい。

### <事務局>

- ・現在、各市町村、幼児教育施設、小学校等において、架け橋プログラムの取組みの進捗については、様々な状況にあると捉えている。市町村において、具体的な取組として進めているところもあれば、何から始めればよいのかと悩んでいるところもあると捉えている。各自治体のリーダーシップが非常に重要である中で、各市町村の関係者が架け橋プログラムの意義への理解を一層深め、自分たちの市町村にとって必要な取組みについて、具体的にイメージを描いていくことができるよう、本会議を通して支援していきたいと考えている。

### <委員>

- ・幼児教育に関わる方や小学校教育に関わる方など、現場の考え方がこの会議の中でも反映されていくと、さらに内容が充実していくと考えるが、いかがか。

<事務局>

- ・現場の声を含めながら、会議を進めていく。いただいたご意見については、再度参考にし、検討していきたい。

<委員>

- ・幼児教育センターの組織の中で、架け橋期のコーディネーターの育成、派遣とあるが、これは具体的にはどのような方を想定しているのか。どのような方向性で育成を図っていくのか。

<事務局>

- ・現在の幼児教育アドバイザーの方に、架け橋期のコーディネーターを兼ねて活動していただく。

<委員>

- ・幼児教育アドバイザーに就任した方は、実績のある方々だと思う。その方が架け橋期のコーディネーターも兼ねていくという方向性は非常によいと思う。加えて、さらに重層的な取組みにしていくために、現役の幼児教育の関係者や小学校教育の関係者などにも広げていく方が、より充実したものになると考える。

<事務局>

- ・いただいたご意見を踏まえ今後どのように広げていくのか、検討を進めていきたい。

<委員>

- ・幼児教育アドバイザーの派遣募集について、募集状況を教えてほしい。

<事務局>

- ・今のところ、前期分10件ほど応募が上がってきている。今後もチラシを活用した周知に一層ご協力いただきたい。

<委員>

- ・前期分10件の内訳を教えてほしい。

<事務局>

- ・幼稚園、認定こども園、保育所それぞれから頂いている。また、市町村主催の協議会、小学校からの依頼もある。

<委員>

- ・現状からすると、連携といっても入学児童の引き継ぎで留まっている。授業参観や保育参観を通して架け橋プログラムを進めていくところまでは至っていない。一つの施設から一つの学校へという場合は、比較的連携がしやすいが、複数の施設から一つの学校になると難しさがある。公開保育なども行っているが、遊びを通した学びということについて、なかなか理解が広がらないと感じる。幼稚園では、0歳児から預かることも大変多くなり、アタッチメントや特別支援に関する事など、保護者と連携を図っていくという大切な責務もある。その中で、この幼保小の架け橋プログラムをどのように具体化していくかというところが、幼児教育側においても、大きな課題となる。幼児教育センターが設置され、教育の質、連携の質を向上していくためにも、ぜひ幼児教育アドバイザーの方々にご尽力いただいて、小学校と幼稚園、保育園をつないでいただければありがたい。

<委員>

- ・一園と一校の連携は比較的取りやすいが、現状は一つの園から複数の学校に就学している。米沢市には幼稚園、保育園、認定こども園、小学校が連携する組織がある。40年以上の歴史の中で、保育参観と授業参観で互いに見合うということを中心に取組んできた。近頃は、市内をいくつかのブロックに分けて、連携について具体的なディスカッションをしている。保育所の補助金には、小学校との「接続加算」がある。上位の加算をいただくには、カリキュラム作成が必要になるが、これには、まだハードルが高いと感じている。
- ・全県幼児教育推進フォーラムが開催されるとのこと、大変良かったと感じている。今まで幼稚園は幼稚園、保育所は保育所、認定こども園は認定こども園で研修ということがほとんどであったが、山形県の幼小連携を一つの方向に向けるには、このような合同の研修会は必要である。内容については、行政説明と講義動画であるが、山形県幼児教育推進ビジョンの行政説明だけでは物足りない。現場の意見を入れて進めることが大切である。こども家庭庁では、「幼児期までのこどもの育ちに係る基本的なビジョン（はじめの100か月の育ちビジョン）」を出している。これについても共有していきたい。

<委員>

- ・前回の協議会から、さらに踏み込んだ施策となっている。前回までの協議会で話し合った部分がしっかり反映されている。非常にいい形に進化していると感じる。
- ・架け橋期のカリキュラム作成はなかなか難しい。こども大綱ができたことによって、0歳から18歳までの保育について国が責任を負うという体制ができたことを踏まえ、一人一人の子どもを大事にして、一人一人に寄り添って、しっ

かり育成に関わることが求められる。架け橋期のカリキュラムをつくった、できたから完成ではなく、その先に何を求めていくか、何をどう解決していくか、何につなげていきたいかというところまで考えていく必要があると思う。

- ・市の幼保小連携協議会に出席されていた小学校の校長先生が、自校での取組みについて紹介してくださった。1年生の4月初期段階は、保育園や幼稚園、認定こども園と同じような時間をつくっているということだった。これまでの小学校のイメージとは違う取組についてお聞きし、大変感激した。横浜市などでは、保育士や保育教諭を小学校に派遣し、1年生が生活に慣れるまで一緒に過ごす時間をつくっているという話を聞いたこともある。
- ・子ども一人一人の成長をきめ細かく考えながら、より効果的なカリキュラムにするためにも、カリキュラムをつくって終わりにせず、手段も含めて丁寧に考えていく必要があると思う。

#### <委員>

- ・前回よりも内容が深まっており、期待がもてるビジョンになっている。
- ・国公立幼稚園は、地域の幼児教育の拠点として、教育内容の質の向上とともに、その成果を周囲の施設または地域へ発信していく役割を担っている。日々、遊びを通した学びの充実及び実現に向けて、様々な実践を重ね、発信していくことに力を注いでいるが、ビジョンと重なるところが大変多い。ビジョンを活用し、国公立幼稚園の質の向上を図っていきたい。
- ・園児数の減少により、山形県においても国公立幼稚園の数は年々減ってきている。更なる保育の質向上を目指し研修に力を入れているが、若い先生たちに十分な研修の場を提供できていない現状もある。そういった中で、幼児教育センターで計画しているオンデマンド配信による研修は大変ありがたい。
- ・最近幼児教育が見直されていると感じている。自園にも、小学校からの視察が複数あり、「遊びはどのようにして発展するのか」「遊びの環境はどのようにしてつくっていくのか」などを、学んでいかれた。小学校の取組が変わってきていると実感している。本園で公開研究会を予定しているが、小学校からの参加も年々増加している。
- ・先日、近隣の小学校との連携会議を開催した。以前は、入学する子どもの情報交換で終わっていたが、今年は「どんな子どもを育ていきたいか」といった部分を共有しながら、「どんな教育・保育を大切にしていきたいか」ということについて、参加者同士で話し合いを行うことができた。本ビジョンを通して、各地域における架け橋プログラムの取組が、少しずつ進んでいくことを期待している。

#### <委員>

- ・本学は、保育士と幼稚園教諭と小学校教諭の養成機関である。カリキュラムの

中に幼保小の接続と実践を位置付けている。担当教員は、元小学校と幼稚園の園長であり、幼稚園や小学校の実際の事例をもとに、遊びや学びの見取りについてや、実際の子どもの関わりについてなどを学んでいく講義等を設定している。また、幼保小の架け橋プログラムについてもカリキュラムの中に盛り込んでおり、本学としては、学生のうちから幼児教育と小学校教育の接続の視点をもてるよう教育している。

- ・養成機関として、例えば、幼児教育アドバイザーに、本学の授業の中で実践例についてお話いただく機会など、今後検討していきたいと思った。子どもの姿から学びを捉える視点を、ぜひ学生のうちから経験させていただければと思った。
- ・施策については、本年度からの内容と伺っているが、まずは今年度取り組んでみて、検証しながら進めていくとよいと考える。

#### <委員>

- ・幼児教育センターの設置と山形県幼児教育推進ビジョンの策定について、幼児期の教育を生涯にわたる人格形成の基礎に位置づけていただき、幼児教育と小学校教育の円滑な接続、そして質の高い保育、教育環境の充実を目指していくことに、深く感謝したい。
- ・山形市においては、認定こども園、保育所、幼稚園、小学校との連携を一層推進し、一人一人の育ちを切れ目なく支えるという体制づくりを行うなど、安心して子育てができる環境整備を進めている。県幼児教育センターが設置されたが、幼保小の連携の充実、そして地域の実情に沿った幼児教育の質の向上に取り組む、子どもたちが健やかに成長できるように進めていきたい。
- ・ビジョンにある幼保小の接続の充実、保育者の専門性の向上について、市町村だけではなく、県で、広域の視点から、具体的な支援策を示していただきたい。
- ・幼児教育の更なる質の向上という点で、山形市では幼保小連絡協議会を設置している。スムーズに小学校教育につながるように事業等を行って、小学校、幼稚園、認定こども園、保育園の教育に関わる連携等を図っている。
- ・「幼児教育と小学校教育の円滑な接続による学びの連続性の確保、架け橋期のカリキュラムの充実」とあるように、各地域や施設ごとに取組み状況に差があるため、接続期における育ちや学びの視点、実践事例、カリキュラムの考え方などについて、架け橋期のカリキュラム開発会議が開催される予定だが、県としての一定の指針やモデルを示していただくと、市町村や各施設における取組みがより円滑に進められるのではないかと期待している。
- ・保育の専門性の向上について、保育や教育ニーズの多様化、特別な支援を必要とする子どもへの対応など、現場に求められている役割が年々増加している。県による体系的な研修体制の整備や充実、専門性や支援体制の強化等を示していただければと考えている。

- ・子どもの健やかな育ちを支える環境づくりに取組む上で、県と市町村が連携しながら幼児教育・保育の質の向上を一体的に推進していくことが重要だと思う。

<委員>

- ・庄内町の状況について、小学校区にそれぞれ幼稚園、認定こども園が一園ずつという状況であり、比較的幼小の連携は図られている。指導主事は、幼稚園だけでなく、認定こども園や保育所にも足を運んでいる。就学に向けた指導についてもうまく連携できていると捉えている。
- ・今後、公立幼稚園の認定こども園への移行に向けて、今年度プロジェクトチームを庁内に設置している。そこへ、この幼児教育アドバイザー派遣事業を活用させていただくことになっている。この事業は大変タイムリーで、ありがたい。
- ・民間の保育園、認定こども園、公立幼稚園と年間複数回の合同会議を設けている。そこでは、子どもに接する先生方のモチベーションをいかに上げていくかということについて話題となった。このビジョンの中にも、保育者の質向上とある。先生たちが働く喜びを実感しながら、教育や保育にあたることができるよう、保育者の支援についてぜひお力添えをいただきたい。
- ・現場に寄り添った様々な施策が展開されていることが大変ありがたいと感じている。

<委員>

- ・先日、全国保育士養成協議会の東北ブロック総会が行われた。東北ブロックでは毎年、ブロックセミナーを開催している。今年度は9月12日、13日に山形県と秋田県の共同開催で、秋田市で開催される。初日12日のシンポジウムでは、文科省からの委託研究を受けた大館市における架け橋プログラムの取組が取り上げられる。具体的には、大館市の取組について、行政、教育委員会、小学校、保育園、幼稚園の現場の先生方、それぞれの立場からお話をいただく予定になっている。このことについて、県幼児教育センターの方に情報を共有するので、好事例の情報発信の一つということで、ぜひ全県に周知してほしい。

<委員>

- ・管理職向けの研修の実施も架け橋プログラムを進めていく上では重要と捉えている。例えば新しく管理職になられた方への研修を取り入れてはいかがか。

<委員>

- ・小学校の先生が幼児期の子どもの姿を見る機会がまだ少ないと思う。就学前の子どもたちの姿を実際に見る機会は大切である。幼稚園の場合は、預かり保育はあるが、1日の流れは小学校と似ている部分がある。保育所の場合は預かり保育という概念ではなく、保育時間の枠がずっと夕方まで続く状況である。朝

7時から夜夕方6時まで、11時間の保育時間である。小学校には、そういった幼稚園や保育所、認定こども園、様々な過ごし方をしてきた子どもが入学していく。より多くの子どもの姿を見ることで、見えてくる部分があると思う。当園において、中堅教諭の研修として小学校や中学校の先生を受け入れたことがあるが、多くの先生が子どもたちの1日の流れについて驚いていかれる。保育所や認定こども園は、保育者の勤務時間よりも子どもの方が長く園で過ごすことがほとんどである。そのため、複数の保育者が一人の子どもに関わるということが普通である。その職員間の連携の様子にも、小学校の先生方は驚いていた。小学校の先生方に、まずは子どもたちの生活の様子を見ていただく機会を定期的に確保する。そして、いろいろな保育スタイルがあることを知っていただく。これを認識してもらっただけでも、幼児の育ちに対するイメージが変わってくるのではないかな。

<委員>

- ・小学校の先生が保育の現場を見る機会を、ある程度の強制力をもって確保していくということも大切ではないか。例えば、小学校の先生の初任者研修に、保育の現場を見る機会を設けていくことはできないだろうか。一日や二日参観し、それを10年続けていけば、小学校の現場に幼児教育に関する知見をもった先生方が増えていく。教育県山形として、他県ではまだ取組んでいないことについて、ぜひ積極的に検討していただきたい。

<委員>

- ・皆様それぞれの立場から、貴重なご意見をいただいた。熱心にご議論いただき、厚く感謝申し上げます。事務局で、本日いただいたご意見を整理し、本県の幼児教育一層の推進に向けた施策を一層ご検討いただきたい。また、幼児教育推進ビジョンの実行性をより確かなものとしていくために、今後も皆様からのご協力をお願い申し上げます。

7 諸連絡

8 閉会